

# 全国英語教育学会 (JASELE) 平成24年度第1回理事会議事録

■日 時:平成24年3月24日(土)14:00 ~ 17:40

■場 所:関西大学千里山キャンパス・岩崎記念館2階会議室

## ■出席者

瀬川俊一[会長], 松本達也[会長代行副会長], 大里文人[副会長], 卯城祐司[副会長], 萬谷隆一[理事(北海道)], 鈴木智己[理事(北海道)兼幹事], 佐久間康之[理事(東北)], 野呂徳治[理事(東北)], 松沢伸二[理事(関甲信)], 杉浦正好[理事(中部)], 早瀬光秋[理事(中部)], 吉田信介[理事(関西)], 高塚成信[理事(中国)], 宮迫靖静[理事(中国)], 伊東治己[理事(四国)], 那須恒夫[理事(四国)], 山内進[理事(九州)]

<以下, オブザーバー>

小野真嗣[北海道研究大会事務局長], 金子淳[幹事(東北)], 羽山恵[幹事(関甲信)], 酒井英樹[幹事(中部)], 竹野純一郎[幹事(中国)], 山森直人[幹事(四国)], 山川満夫[幹事(九州)], 大和隆介[紀要編集長(中部)], 難波和彦[紀要編集事務局長(関西)], 廣森友人[事務局長], 岡良和[事務局(会計担当)], 浦野研[事務局(ウェブ担当)], 田中洋也[事務局(研究担当)]

会長挨拶, 資料確認に続いて下記, 審議が行われた。

## ■議 題:

### (1) 平成24年度新役員(案)

- ・【資料2】について, 役員名簿の確認と所属名, 住所の訂正が行われた。
- ・【資料3】について, 北海道英語教育学会より地区研究大会日時, 会員数の訂正が報告された。

### (2) 第38回愛知研究大会実施要綱(案)

- ・杉浦大会実行委員長より資料にもとづき説明, 資料訂正の説明が行われた。また, 予稿集原稿については, ウェブサイトの専用フォームを利用し, メール連絡を行わない方針であることが説明された。
- ・出席者の指摘により, 用語の統一など資料の訂正が行われた。
- ・大会要項の訂正については3月末までに大会事務局に連絡をすることが確認された。
- ・廣森事務局長よりワークショップから研究発表再開までの移動時間がないため, 検討をお願いしたい旨の発言があり, 大会事務局で検討することとなった。

### (3) 平成23年度決算(案)

- ・廣森事務局長より【資料5】により, 決算(案)の説明が行われた。

- ・羽山幹事より北海道地区会員数の訂正に伴い、全国会員数が修正されるべきであるとの指摘があり、修正された。

#### (4) 平成24年度予算(案)

- ・廣森事務局長より【資料6】に基づき予算(案)についての説明が行われた。
- ・40周年記念誌積立金について、本年度より一定金額ずつ(平成24年度は100万円)積立てを行うことが確認された。
- ・高塚理事より、中国地区での実例にもとづいて事務局担当謝金について説明がなされ、全国事務局では謝金が計上されていないため、予算に担当者事務謝金(具体的には、紀要編集委員長、事務局長、事務局ウェブ担当)を計上すべきであるとの提案があり、第2回理事会に事務局担当謝金を組み入れた修正予算案を提出することが了承された。

#### (5) 第39回北海道研究大会(経過報告)

- ・北海道研究大会について資料が配布され、それにもとづいて萬谷理事、小野大会事務局長より、場所、日時等について説明が行われた。航空機と宿泊予約がパックになった旅行手配方法が浸透していることから、大会事務局として確保するホテル室数が例年よりも少なくなる予定であることが説明された。

#### (6) 全国英語教育学会40周年記念誌(案)

- ・卯城副会長より、ARELE40周年記念特別号の構想(案)【資料7】について説明が行われた。主な説明は以下の通りである。
  - 記念誌については、資料集ではなく、研究編を重視したい。
  - 資料編については、印刷媒体ではなく、ウェブで整備したい。
  - 若手の研究業績になるような記念誌にしたい。
  - 記念誌の編集委員については、編集委員としての仕事内容に報いるために、査読を経た後に、論文の掲載を行う方針としたい。
  - これまでの記念誌について、収集作業を進めている。
- ・説明に続けて、各地区からの意見が求められた。主な意見は次の通りである。
  - 通常のARELEの紀要編集委員会が関与し、通常の査読を行った方が良い。(高塚理事)
  - ARELEとの違いを明確にするために、40周年記念誌のテーマを持った上で募集や原稿依頼を行うべきである。投稿論文的な要素と学会としての方針を持ち合わせることも重要である。(佐久間理事)

- JASELEでは、実践が重視されてきたはずであるが、実際には研究重視の傾向にある。その状況から「研究重視」の方針で行くべきかには課題がある。様々な校種の連携により実践に役立つ情報を発信すべきである。(高塚理事)
- 国際誌のSupplementのようにテーマを組んで、投稿や編集者の募集を行うことも可能ではないか。系統によって、割合を決めてバランスをとると良い。(酒井幹事)
- 読者が誰かということ意識して方針を決定すべきである。言語についても、日本語にした方が現場の先生向けに発信できるのではないか。(伊東理事)
- 記念誌の目的は何かということを検討すべきである。目的の焦点化が必要である。(早瀬理事)
- 人員について、各地区から均等に選出することが、実際に作業を効率的に(負担が偏ることなく)進めることにつながるかどうか疑問が残る。(高塚理事)
- 選出に関連して、現ARELEの編集委員から出す可能性はあるだろうか。(山内理事)
- ARELE編集委員を記念誌編集委員とすることは、負担を増やすことになる可能性もあり、記念誌編集委員会は別に考えるべきである。(佐久間理事)
- 記念誌編集委員会の構成は慎重に検討すべきである。(杉浦理事)
- 記念誌編集委員会については、一部の人員の作業を減らす対策が必要である。(高塚理事)
- 現場の先生に向けた啓蒙書的な記念誌にしてはどうだろうか。(高塚理事)
- 記念誌編集委員はその負担も重くなることが予想され、全国事務局が入ることはこれまで以上にその負担を増やす懸念がある。(佐久間理事)

- ・これらの意見に対して、卯城副会長から次のようなまとめがあり、了承された。
  - 研究、実践のバランスを考慮して編集を進める上で意見を求める発言があった。今回の意見を集約すると、理論と実践の融合がひとつの大きな目標となるように感じられる。
  - 記念誌編集委員会の構成については、効率性や負担の分散を考慮して検討したい。構成員については、原案に加えて希望者を募り、編集委員会を構成する。原案の修正として、委員長、副委員長が割り当てられた地区は、人員を増強するなどの案をとりたい。
  - 理事会での意見を集約して、原案を修正して8月の理事会までに委員を募り、集約したい。
  - 今後は全国事務局を通して、メール等で連絡を行っていききたい。意見については、その都度、理事・幹事から集約したい。

#### (7) 紀要ARELE 23号編集経過報告

- ・大和編集委員長、難波編集事務局長より【資料8】にもとづいて、説明が行われた。
- ・佐久間理事より、発行の遅れについて理由を尋ねる質問があった。大和編集委員長から、今年度はこれまでに比べて発行作業は順調に進んでいるが、査読の遅れが主な原因となっていることが説明された。また、卯城副会長より、発行前に業績の報告のためにページ数など

の情報を開示できるよう要望があった。これに対し、編集委員会では、これまで通り個別に対応することが確認された。

- ・今後、編集委員会として実践報告と研究論文についての審査基準の差別化、実践報告の学会賞基準の申し合わせについても検討したいとの説明があった。

#### (8) 全国英語教育学会・学会賞(案)

- ・大和編集委員長より、59件の投稿論文のうち最高得点の論文について学会賞授与の提案があり、承認された。教育奨励賞は、該当論文がないことが報告された。

#### (9) 次期会長選挙

- ・廣森事務局長より、【資料9】にもとづいて、次期会長選挙に関する手続きについて説明が行われた。瀬川会長より、関連して補足説明が行われ、第2回理事会における選挙について確認された。

#### (10) 学会申し合わせ事項(案)

- ・瀬川会長より、【資料10】にもとづいて、これまでの申し合わせ事項の確認、ならびに必要な事項（慶弔費等）の追加を行いたいとの提案があり、説明が行われた。
- ・新しい申し合わせ事項として、会長を含めて理事ではない出席者（紀要編集委員会、事務局）についても春の理事会については旅費が支給されるべきであるとの提案がなされ、基本方針としていったん了承された。
- ・その後、各地区学会による旅費補助支給状況についての意見交換が行われ、上記との関連も踏まえながら、会長を含めて理事ではない出席者、各地区の理事、幹事等で地区学会から支給される旅費では足りない出席者の旅費もあわせて支給が可能かどうか検討し、第2回理事会において、詳細を文章化して提示した上で決定することが合意された。

#### (11) 言語系学会連合への加盟

- ・廣森事務局長より、【資料11】により、言語系学会連合加盟についての説明が行われ、基本的には加盟を前提に検討を進めたいとの提案がなされた。
- ・高塚理事より、意見交換会への出席に係る旅費補助支給など学会予算執行について見通しを立てた上で、第2回理事会で加盟するか否かの決定をすることが提案された。
- ・これに対して、卯城副会長より、これまで全国英語教育学会では、この加盟について結論を先延ばししてきた経緯があり、連合での学会地位の確保のためにも早期に決定するべきとの意見が出された。
- ・最終的には、第2回理事会で加盟をしようかどうかについて決定することが了承された。

(12) その他

- ・ 廣森事務局長，田中事務局補佐（研究担当）から【資料12】により，報告と情報提供の依頼があり，承認された。また，役員名簿についても，学会ホームページ上に掲載することが確認された。

閉会にあたり，瀬川会長より御礼の挨拶があった。

■ 配布資料：

資料1 出席者名簿

資料2 平成24年度役員一覧(案)

資料3 各地区学会情報

資料4 第38回愛知研究大会について

資料5 平成23年度決算(案)

資料6 平成24年度予算(案)

資料7 全国英語教育学会40周年記念誌について

資料8 紀要ARELE 23号編集経過について

資料9 会長選挙について

資料10 学会申し合わせ事項について

資料11 言語系学会連合への加盟について

資料12 学会ホームページ移行について

参考資料 本学会会則および諸規定

追加資料 第39回北海道研究大会の準備進捗状況の報告